

視聴覚教育

NO.307

発行日

16.11.10

発行

岡崎市AVL

編集

現職教育委員会

学習情報部

視聴覚用語

セキュリティホール
ソフトウェアの設計ミスなどによって生じた、システムのセキュリティ上の弱点。セキュリティホールを放置しておく、悪意のあるユーザにインターネット経由で不正にコンピュータを操作されてしまう可能性がある。

学校における

情報化時代のセキュリティ

学校指導課指導主事 小川 規博

社会のいたるところでセキュリティの問題が話題となつている。学校も同じである。

今まで学校から発信されるデータの中に、細かい個人情報があつても、今ほど大きな問題にはなつていなかった。児童・生徒名簿などに細かい記述があつたとしても、同じ学級内であれば当然のように配布されてきた。

ところが、今では、必要最低限度の情報に限定し、その取り扱いについても非常に神経を使つている。個人情報流され、悪用されるケースが目立つてきたからだ。中には、その名簿をお金で買い取る業者もあるという。情報はコピーされ、売買されて簡単に広まつてしまう。それが、コンピュータなどのデジタルデータならばさらに簡単に流通してしまう。

さて、こうした情報の漏洩を防ぐために、注意を払うべき点として次の3点がある。

データは、コンピュータに保存しない。サーバーやバックアップメディア等に保存をし、厳重に管理をする。

バックアップメディアには、パスワードや認証システム（指紋認証等）を導入する。

児童生徒の個人情報は、学校の外に持ち出さない。

ここまで注意を払う必要があるのかという意見もないわけではないが、残念ながらこの程度の対策は、初歩であるといつてよい。

については、非常に危険をはらんでいる。一度でも児童生徒の個人情報を保存したコンピュータは、データを消去しても簡単にデータを復元できるのである。データの消去・削除や記憶媒体の初期化（フォーマット）は、今のコンピュータはあまりいいない方法で行つていない。つまり、データの消去作業では、全部のデータを消しきつていないのである。データが格納されている先頭部分に、消しされたという印をつけておけば、全部きちんと消す必要が無いのである。これが、今のコンピュータが行つている消去方法である。

ノートパソコンで一般的な容量の40GBのハードディスクを、全部きちんと消すと（物理フォーマット）、実際どれくらい時間がかかるだろうか。ハードディスクの性能にもよるが、一般に数十時間かかるというわけである。これが、データの先頭だけ消すという方法



（論理フォーマット）なら1〜2分で済む。今のコンピュータは、物理フォーマットを通常は行わない。リカバリーCDでフォーマットをかけたとしても、データは簡単に復元できる。従つて、データを全て消し去つたパソコンでも、他人に譲つたり売つたりするのは、危険である。さて、については、最も難しい問題である。万が一データが流出してしまつた場合のことを考えて、ぜひ、のような対策を立てるよう心がけたい。メディアを盗難・紛失した場合でも、きちんと対策がなされていれば、大問題にはならないであろう。

情報管理ばかりではない。イントラの教育ネットワークも常に危険な状態にある。現在、個人パソコンを使わざるをえない環境にあるがゆえに、ウイルスに感染した個人パソコンを教育ネットワークに接続し、ウイルスを発信する行為が後を絶たない。

こうした行為は、犯罪行為であり厳しく罰せられるべきものであるが、日本の土壌には合わないらしく、厳しく罰せられたという話は聞かない。欧米の企業では、会社のパソコンから私的なメールを発信しただけで解雇されたという話も聞く。ましてや、個人パソコンを公的ネットワークに接続し、ウイルスを発信したらどういふことになるのであろうか。

今の学校は、非常に多くのことに取り組んで行かねばならない。そのための時間を生み出すため、コンピュータの利用はますます進んでいくと思われる。その時に、セキュリティ対策ができないと大変なことになるであろう。

最後に、「復元」というフリーソフトを紹介したい。誤って削除したファイルを復元したり、反対に機密文書などを復元されないように完全に削除したりできる。ぜひ利用してほしい。

<http://www.vector.co.jp/soft/w/n95/>

[uti1/se192983.htm](http://www.vector.co.jp/soft/w/n95/uti1/se192983.htm)

「視聴覚あれこれ」

第55回放送教育研究会

全国大会に参加して

学習情報指導員 杉浦 修

平成16年11月5日(金)～6日(土)にかけて、東京都内の幼稚園・小中高校を授業公開会場とした、放送教育研究会全国大会に参加した。大会主題は、「進む放送のデジタル化と放送教育の新たな展開」であった。

地上波デジタル放送が開始される中、授業でどうデジタルの良さを生かしたらよいかということが話題となっていた。

現在、普及が進むサーバー型テレビは、教育上必要なビデオデータやクリップ(一概念ビデオ)を、簡単に取り出して利用することを可能としている。この特性を生かし、伝統的な番組利用だけでなく、「NHK学校放送オンライン」のようなネットワーク上のHTMLデータを組み合わせる利用することが今後の課題であると感じた。全体の研究協議でも、教師にはその膨大な教育資料を組み立てる力量が求められるということがポイントとして出されていた。



岡崎市では、すでにVOD等の実証実験等を通してこうした取り組みが始まっているが、今後も、整備された動画、静止画コンテンツとともに、ネットワーク上のデータと放送番組をどのように組み合わせさせて利用するか、いっそう研究を進めていく必要があると感じた。

「レットトライ」

PCラベルプリンタで楽々名札作り

10月30・31日に行われた造形「おかざきっ子展」の準備において、本校ではPCラベルプリンタが大活躍をした。本校のPCラベルプリンタは、ブラザー社の「P Touch」という商品であるが、キングジム社の「テブラPRO」やカシオ社の「ネームランド」三菱鉛筆社の「ラベロ」等、数社から発売されている。

少し前であったら、ラベルデータを付属のキーボードから一枚一枚入力する方法を取っていたが、最近ではコンピュータ上で処理したデータを本体に送り、一気に全クラス分の名札を作ることが可能となった。実はこのラベルプリンタ、今年度5月に購入して



もらい、全職員に紹介したのだが、その時は誰も感心を持たず、ほとんど利用されていらない状態だった。ところが、大量の名札が必要になる「子展」が近づき、図工主任の先生に改めて紹介したところ、「こんな便利なものがあったのか」とさっそくテープを購入、多くの学年で活用されることとなった。何より、Excelで作成した名簿データをそのまま利用してテープに打ち出せることで、操作も簡単であることが大きな利点である。

作品展示や管理物品の表示など、まだまだいろいろな場面で利用できそうなメディアである。(矢作北小学校学習情報主任 太田里英)

ライブラリーだよ

視聴覚ライブラリー新規購入作品の紹介

- 16ミリ映画
- セツちゃん 34分
- やさしいオオカミ 15分
- ちびまる子ちゃん 24分
- まる子たち一年生の世話をやく 23分
- クマのミナク口と公平じいさん 23分
- くまのおいし屋さん 18分
- おにたのぼうし 21分
- おおきななぐ 25分
- 盲導犬クイールの一生 DVD 21分
- ひなまつり・七夕ものがたり 20分
- クリスマスキャロル(三本組) 24分
- 鉄腕アトム ASTRO BOY 24分

これら新規購入番組の貸し出しについては、事前にライブラリーにお問い合わせください。

第2回「ふるさと岡崎メディアコンクール」締め切り迫る!

12月10日(金)が締め切りです。ふるってご応募ください。応募の詳細、応募用紙については、視聴覚ライブラリーのホームページを参照してください。

【<http://www.city.okazaki.ai.chi.jp/ovl/>】
【<http://www.library-homepage.html>】